令和4年度 福井農林高等学校　学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策･向上策
1 教育課程 学習支援 教務部	①ICT機器の機能を有効活用し、生徒が主体的に学ぶ授業の工夫を推進する。 目標：ICT機器を活用するなどして、授業づくりの改善に取り組んだ教員80％以上 ②各教科・学科で自主教材を作成したり、個別に対応したりして、分かる授業の推進や学習の遅れのある生徒への配慮を図り、生徒の授業への満足度を高める。 目標：授業満足度80％以上	・クロムブックを使う授業実践の頻度は教科や授業内容によって異なるが、調べ学習や発表資料作成などに主に活用されている。73.8%の教職員がICT機器利用を意識したり、教材を工夫したりして授業改善やスキルアップに取り組んだ。 ・昨年より微減しているが、生徒の88.3％が授業に意欲を持って取り組めたと回答し、保護者も86.2％が本校の授業に満足している。各教科学科で個別対応や学習の遅れのある生徒にも対応した教材工夫や課題内容見直しなどが行われている一方、欠点をとる生徒や成績不振者に対する教科特別指導に応じない生徒が増加した。今後も生徒の現状に即した指導により理解度を高める努力を継続する必要がある。	・ICT機器を活用した授業作りについては、今後もICT支援員巡回を活用したり、ニーズに応じた校内研修を実施したりするなどしてスキルアップを目指していく。クロムブックについては管理面と活用しやすい環境づくりについて検討が必要である。 ・学習習慣の定着と基礎学力・学習意欲の向上を図るための授業を作る工夫を継続するとともに、各教科学科で評価基準の共通理解をはかることが必要である。 ・今後も、生徒の実状に応じて、習熟度別の授業や少人数授業、個別指導を行っていく。学習の遅れのある生徒の指導については、学年会や教科・学科とも連携をとり、学校全体での取り組みを図っていく。
2 生徒支援 生徒指導部	①社会生活における基本的生活習慣を確立させるとともに、規範意識を高めさせる。 目標：全生徒の規範意識向上100％達成 ②学校行事や部活動に生徒自らが主体的に取り組もうとする態度を培わせる。 目標：学校行事・部活動への参加意識100％達成	・「主体的に取り組もうとする態度を培わせる」の目標については、全教職員が共通理解して指導することができた。「規範意識を高めさせる」については、教職員のさらなる生徒への支援が必要と思われる。 ・「学校行事や部活動に主体的に取り組めていない」と回答した生徒が6,1％、「こどもが積極的に学校行事や部活動に取り組めていない」と回答した保護者が16,8％とやや気になる数字であった。	・学年会・学科会との連携を図り全教職員が組織的に取り組み生徒支援を継続することにより、コミュニケーション能力や社会生活を送る上での規範意識の向上、主体的に取り組む態度の育成を図っていく。 ・規律意識を高めさせる指導については、家庭との連携をさらに深めながら生徒の意識を変えていけるよう粘り強く取り組んでいく。
3 進路支援 進路指導部	①生徒の進路意識形成を目指し、進路学習・ＬＨ等の時間の活用により計画的に進路指導を実践する。 目標：キャリア教育や進路指導の達成度自己評価アンケート80%以上 ②全校体制によるきめ細かな進路指導を行い、個々の生徒の進路実現を図る。 目標：進学就職希望100%達成	・教職員については、目標値を達成することができたが、生徒・保護者については僅かに達成目標値に届かなかった。さらにすべての進路目標の設定割合が昨年よりも低下した。最近は進路意識の低さや興味関心の低下、進路行事に向き合う前向きな姿勢の欠如が目立つようになってきた。 ・保護者が子供と進路について十分話し合えているかについては、低学年ほどその割合は低く、進路指導に関しての家庭との連携の難しさの程度が年々増加している。 ・教職員全員での企業訪問や、多くの教職員による面接指導など、全校体制による進路指導の成果が、求人企業数の大幅な増加や進路先内定・合格状況に現れている。	・本年度より、総合探究の時間の廃止により、各部が連携した３年間のキャリア教育の繋がりが、生徒に伝わりにくくいと考えられる。そのため、例えば各行事のタイトルをキャリア教育①・②･･･などと統一することにより、一貫したキャリア教育であることを認識できるよう工夫する。 ・低学年においては進路関係の行事を行う際に、その意義や目的、将来の進路をの関わりをしっかり認識させるとともに、事後アンケートを通した振り返り指導を徹底する。 ・生徒の入学定員増に伴う生徒総数の増加により、目的意識の低い生徒の割合が高くなってきていることが考えられる。進路行事の際に全体指導ではなく、希望に応じた個別少数指導など、運営方法の改善を図る。
4 図書指導 PTA活動 安全管理 図書庶務部	①図書館利用者及び図書貸出数の増加を図る。 目標：年間貸出1500冊以上 ②学校教育活動について保護者への積極的な情報提供を行い連携を深める。 目標：ＨＰの既読80％以上 ③ 避難訓練や防災や安全教育などを通して生徒の防災意識や安全意識を高める。 目標：生徒の防災・安全意識80％以上	・目標の図書貸出冊数には１月時点では到達していないが、これまでに約1,000冊の貸出がある。学年末の朝読書で目標達成できるよう、引き続いて読書活動の推進を図っていきたい。 ・タブレットの利用方法を昨年までと変更したことにより通常の授業での利用が伸び悩んでいる。それに伴い図書館でのタブレットを利用した調べ学習やグループ学習も昨年に比べ減少している。 ・外部、特に中学生に向けた発信のため、教職員からのホームページへの掲載依頼が増えた。YouTube「福農チャンネル」を通して、生徒だけでなく保護者、中学生へ多くの情報発信をすることができた。また、このチャンネルを利用して、始業式・終業式等、コロナ禍での集会を行うことができた。 ・全校生徒、教員対象の避難訓練（防災訓練）や防災教育を実施したことで防災意識は高い。	・入学時に図書館利用オリエンテーションを実施することで、早い段階から利用してもらえるように配慮する。新着図書の紹介や図書配架の工夫を行い、より多くの生徒が本に興味を持てるよう努める。学期毎の読書会は、全学年横並びにするのではなく、クラス毎で設定日を変えることで図書館の本をより多くの生徒が利用できるよう工夫する。また、教員の図書館（視聴覚室）利用率が下がっているので、推薦図書を生徒に紹介してもらう等して、教員にも図書館の利用をして貰えるようにしていきたい。 ・学校の情報を発信するうえでホームページの重要性が更に高まっていくと考える。そのため、スマートホンにも対応した新しいホームページの構築を検討していきたい。 ・全校での避難訓練、教職員の防災訓練、防災教育を継続することで、防災や安全意識を培っていく。
5 保健管理 保健部	①健康的な規則正しい生活を送り、心と体の健康について自己管理の徹底を促す。特に、新型コロナウイルス感染予防を徹底させる。 目標：健康管理を心がける80％以上 ②快適で清潔な学習環境の整備のため、毎日の一斉清掃の徹底を図る。 目標：校内環境美化活動に意欲的に取り組む80％以上	・健康管理を心がけている生徒の割合は３年連続で目標の80％を上回った。保護者も３年連続目標の80％を上回るとともに過去最高を更新した。教職員も９年連続で90％を上回るなど、新型コロナウイルス感染予防を徹底する取り組みを行っていることにより、健康管理への意識や関心が全体的に向上している。 ・校内美化活動に取り組んだ生徒の割合は７年連続で目標の80％を上回った。保護者ならびに教職員も９年連続で90％を上回るなど、環境美化に対してかなり高い状態で推移している。	・生徒自らが健康管理できる割合を高めるため、医療従事者や養護教諭の講話を企画したり、入学式後に1年生の保護者対象に保健指導を行うことや、保護者懇談会で健康管理について話題にするよう担任に依頼するなど、取り組みを継続する。 ・生徒の校内環境整備への意識をさらに高めるとともに、毎日の通常清掃の徹底を図るために、保健委員会の活動として清掃中の見まわりを継続実施していく。
6 スペシャリスト の育成 実習部	①課題研究や校外実習・学校行事などを通して、地域や産業界等との交流に取り組み、地域連携を深める。 目標：教員が地域との交流の大切さや農業の素晴らしさを生徒に伝える80％以上 ②資格取得を通して、生徒の学習意欲を向上させ、学科の専門性を高める。 目標：卒業時に福井フューチャーマイスター「ゴールド」70％以上認定	・今年度も、４月より感染予防対策を続けながらの学習活動であったが、例年同様にインターンシップや校外連携活動ができた。 ・今年の３年生は、１年時より新型コロナ感染の影響を大きく受けた学年であった。 ・今年度の3年生の福井フューチャーマイスター取得状況はゴールド以上が62.3％（昨年70･3%）と低い値となった。これは資格取得の学習や受験の機会がコロナにより制限された中での結果である。 ・日本学校農業クラブ全国大会北陸大会では、3年生が中心となって大会運営に活躍していた。	・学科主任会議や実習会議において、定期的に地域や外部連携に関する話題や情報の提供を行い、教職員の積極的な活動をサポートしていく。 ・資格取得は学科間や難易度によって差があるが、各学科で３年間の取得目標を持たせ、入学時より生徒･保護者に働きかけて、計画的な取得を促す。 ・「福井フューチャーマイスター制度」の「プラチナ」「ゴールド」の認定に向けて、生徒に学校生活全般の過ごし方を振り返らせ、保護者には資格取得の意義と検定料負担への理解が得られるように説明していく。
7 いじめ防止 いじめ対策委員会	①ホームルーム活動や学校行事、部活動等の集団行動を通して、全生徒が思いやりや助け合いの心を育てる。 ②アンケートを実施し、面談やカウンセリング等を通して、いじめの早期発見と早期解決を図る。 目標：いじめの早期発見・早期解決への取り組みについて、満足度80％以上を目指して指導する。	・思いやりや助け合いの心については、生徒93,6％、保護者90,0％、教職員95,2％ができていると認識しており、目標を達成することができたと思われる。 ・同級生や先輩、後輩に思いやりや助け合いの心を持って接することが、ほとんどできない生徒が2,6％と若干少数ながらいるのが気がかりである。 ・いじめについて伝えられる生徒は、生徒全体では88,0％と目標値に達し、さらに上を目指したい。 ・いじめ対策については、保護者88,6％、教職員90,5％が十分評価し目標に達した。 ・いじめをアンケート等で伝えにくいと回答している生徒が12,0％いることは、今後の課題である。	･多彩な学校行事により、人間関係を学ぶ機会が多いことがよい結果につながっている。今後も自主的な集団活動を継続し、100％を目指していく。 ･少数ながらいじめをアンケート等で伝えにくい生徒がいるので、アンケートの内容や方法を見直すと同時に、日頃からささいな兆候やサインを見逃さずに個人面談やカウンセリングを行っていく。 ･いじめ対策委員会で気がかりな生徒等の幅広い情報を共有し、学年会や学科会と連携し、未然防止･早期発見･実効的かつ迅速な解決に努めていく。

令和４年度　福井農林高等学校　学校関係者評価表

（問）・学校評価書の成果と課題が適切かどうか。
・成果と課題を踏まえた今後の改善策・向上策が適切か。
・スクールポリシーを踏まえた評価となっているか。
・その他

（意見を聞く方）
長谷川　俊基　氏（元福井農林高等学校長）　印牧　純子　氏（福井農林高等学校ＰＴＡ副会長）
森木　幸一　氏（福井農林高等学校農友会事務局長）佐々木　昭博　氏（啓蒙公民館長）

○教育課程・学習指導
ＩＣＴ機器やタブレットの活用では、わかりやすい授業、理解促進のために努力されている様子がうかがえる。先生方の研修等をとおして、有効活用をさらに進めてほしい。
多様な生徒に対応した学習指導が課題となっており、今後も粘り強い指導をお願いしたい。

○生徒指導
生徒達への規範意識向上は永遠の課題であり、全教職員が共通理解して指導することができたことは素晴らしいこと。今後も手綱を緩めず継続していただきたい。コロナ禍で学校行事や校外活動等を工夫しながら取り組み、成果を上げている。農文祭や体育祭などは内容が凝縮されたが生徒も非常に盛り上がりとても良かった。今後も生徒が主体的に取り組める活動をお願いしたい。

○進路指導
教職員全員での企業訪問や面接指導等により進路内定・合格状況に現れており、今後とも推し進めてほしい。求人企業の大幅な増加は、教職員の丁寧な企業訪問や学校の情報発信の成果だと思う。今後も進路意識が向上するよう興味が持てるような指導の継続をお願いしたい。

○図書指導
朝読書を定期に行うように継続することが良いと思う。課題研究等の調べ学習もネット等も有効であるが、図書（文献）での調べも工夫してほしい。タブレットの利用は調べ学習で有効だが、管理や利用方法の徹底が課題だと思う。

○保護者との連携・安全管理
「福農チャンネル」の学校紹介や地域連携プロジェクトなどの動画は、わかりやすくよくできている。
今後も更新してほしい。安全管理においては、今後も引き続きお願いしたい。

○保健指導
コロナウイルス感染症対策が徹底されており、健康管理についての意識が向上している。国の対応が緩和される以降も、健康管理の意識継続をお願いしたい。
校内美化は教職員の高い意識のもと、清掃活動が徹底されており、指導の成果だと思う。

○スペシャリストの育成
資格や地域連携の取組や各種大会への積極的な参加など、専門の幅広い教育活動で生徒を育てる取組の成果だと思う。今後も福井フューチャーマイスターのゴールド以上の取得に目標を持って、また地域連携の取組を更に広めてPRしてほしい。農業クラブ全国大会では運営に関わった生徒は素晴らしい経験をしたと思う。

○いじめ防止の取組み
ＳＮＳなどじめや中傷が危惧されている中で、「いじめ対策委員会」を開催し、担任や教育相談からの個人面談、情報の共有など、委員会を中心に組織的な取組がいじめの未然防止や早期発見、迅速な解決につながっていると思う。今後も、少数の意見を大切にしながら個に対応した指導をお願いしたい。

○その他
本校の特色ある取組をメディアでよく目にする。今後も学校の魅力を広く見える形で発信をお願いしたい。
進級できない生徒が少しでも減ると良いと思う。

（学校関係者評価を踏まえた今後について）
福井農林高校は多くの特色ある取組を行っている。特に、地元の産業界等との連携をさらに推進し、学科で学んだことが直接活かされる分野はもとより、幅広い分野で活躍できる資質・能力を身に付けた人材を育成していきたい。